

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0891500050		
法人名	有限会社 エム・エス・ティ介護		
事業所名	グループホーム アテン中郷		
所在地	茨城県北茨城市中郷町小野矢指846		
自己評価作成日	令和 3年 11月 2日	評価結果市町村受理日	令和 4年 1月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891500050-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和3年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家のように生活をしていくような環境作りを心掛けています。みんなで楽しく生活をしていくように支援しています。出来るだけ自立した生活を続け、出来ないことはお手伝いするよう支援します。レクリエーションは、折り紙、塗り絵、文字の練習など、脳の活性化をはかるため日常的に行っています。調理レクリエーションでは、みんなの食事を作り、出来上がった職員も一緒に楽しく頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然に囲まれた小高い閑静な場所に立地し、利用者はそこから見える山々や田園風景の四季折々の移り変わりを眺め季節を感じながら生活をする事ができる。管理者は高齢者が自宅にいた時と同じような生活ができるような支援を目指し、全職員で理念を念頭に置きながら支援に努めている。コロナ感染予防の為に外出は自粛しているが、散歩や近隣にある筍狩りや蕨取り、フキ取りなど利用者は職員と楽しんだりするとともに、月1回調理レクリエーションとして皆で食事を作って食べるなど身近にできるものを工夫して楽しんでいる。管理者と職員のコミュニケーションが良く取られ、職員はアットホームな雰囲気の中で利用者にも穏やかに接し、支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき温かい家庭環境作りを心掛けています。	玄関に理念を掲示し、職員が出勤時に目を通して意識し、毎日のケアに活かしている。自宅と同じように過ごすことを意識して利用者に接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの為、自粛していますが終息したら小学校や地域と交流を続けていくように計画しています。小学校の方で電話をもらったりと、つながりを続けています。	コロナ禍の為行えていないが、それまでは地域の草刈りに職員が参加したり、小学生との交流があった。散歩の際に地域住民に野菜のおすそ分けをもらうなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの為、自粛していますが終息したらボランティアの受け入れるようにします。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの為、自粛しています。施設職員だけで会議を行い、議事録を家族に配布しています。来訪された時などに意見や要望を聴き、希望に添えるように努めています。	新型コロナウイルス感染症の予防の為に、職員だけで会議を開催し、市職員は意見等をメールでやり取りする等して参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの為、自粛していますが終息したら、市で行っている勉強会や研修に参加するよう努めます。	生活保護担当者が年1回来訪するほか介護相談員が年2回来ている。市役所へ行き、県の研修会にリモートで参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設けて推進会議で行い、3ヶ月に1回以上開催しています。研修を年2回実施して職員の教育を行っています。	身体拘束適正委員会を毎月開催し記録を残している。会議を毎月実施することで、職員の身体拘束に関する意識を高め、さらに朝のミーティング時にも話し合い利用者を支援している。年2回研修会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いに観察しながら虐待がないか確認しながら支援するように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当する方がいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明し、理解・納得・同意を得て契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪された時など要望や意見を聴き希望に添えるよう努めています。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口と対応者を明示し、玄関に意見箱を設置している。家族等は毎月利用料支払い等で来訪するのでその際に話を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回は職員会議を開き翌月のイベント等の日時や内容、要望など意見交換をしています。	昼食後の記録の時間などを利用して話を聞いたり、職員会議時にも意見や要望を聞いている。シフト体制や物品の購入など即対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績を考慮して給料を上げるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回勉強会を行っています。そこで意見交換をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスで自粛しています。、必要性がある時は交流を持ちますが、通常は交流する機会がありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設になれるように家族や本人に了承を得て、あだ名や呼ばれていた名前で呼ぶようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を見学して頂き、概要や施設を説明をしています。不安や要望を聴き、理解・納得できるまで話をするように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人から希望や要望、生活状態やADLの聞き取り調査を行い支援の方向性を考慮し、対応するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんだり、おやつ・食事の下ごしらえなどレクリエーションを兼ねた生活リハビリを一緒に行っています。一緒に活動しながら不安や悩み、好みや要望を聞くように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支払いは現金精算のため月に1回来訪になっています。その時に家族の方には現状の報告・連絡、相談をします。受診の協力を頂いている家族もいます。遠方や忙しい家族には電話で連絡しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスで自粛しています。終息したら来訪者に声掛けを行い、来訪して頂くように努めます。	基本情報で利用者の友人関係などを把握している。家族等の協力を得て病院の受診帰りに家に寄り、昼食をとったり、買い物をしたりしている。利用者が昔行った食事処で食べたいとの要望で職員と一緒に行って食事をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ドラブルが発生した際には、お互いの話をよく聴き関係が悪化しないように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者や職員が家族と連絡を取りながら、家族をサポートし連携や協働ができるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から情報を聴き出し、その情報を職員が共有し、理解しながら個人に合ったサービスを提供できるように努めています。	居室に1人である利用者に対し、職員はじっくり話を聞くことで、利用者の思いなどをくみ取っている。表情をこまめに観察したり、利用者の話を丁寧に聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と話ながら、これまでの暮らしを把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや個人記録で情報を把握し、理解するように努めています。また、本人との会話の中で、聞きだしたりしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、個人に合った支援ができるようアイデアを出し合い意見交換をしています。	2ヶ月ごとに行っているモニタリングを半年ごとにまとめ、アセスメントシートから抽出してケアプランに反映させている。退院後などには見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスを行い、個人に合った支援ができていないか見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって病院の付き添いをしていません。その時の報告は、随時行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスのため、自粛していますが、ボランティアなど可能な限り参加できるよう支援していこうと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に詳しく相談するように努めています。必要ならば記録をつけたりします。現状の理解の把握が合致しない時があります。	契約時に家族等に説明し、これまでのかかりつけ医に受診している利用者がいる。準看護師による月1回の勉強会を実施している。協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の指示の元、適切な処置を行うようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーの提出、退院時は看護サマリーを受け取るようにしています。相談員と連携を図りながら対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員同士だけでなく、家族にも体調の変化について連絡し、随時相談するようにしています。。	重度化した場合における対応に関わる指針を整備し、看取りを行う事業所であるが、まだ実例が無く、マニュアル作成や職員の研修、定期的な話し合いが行われるまでには至っていない。	マニュアルの整備と重度化や看取りに関する研修会の開催を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設で応急手当や緊急時対応の手順を勉強をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施しています。新型コロナウイルスのため、施設のみで自主訓練を行こなっています。	夜間想定を含む避難訓練を行っている。訓練後は反省会を行い、課題について話し合っている。災害に備えた備蓄品の管理が不十分である。	災害に備え、備蓄品の一覧表を作成し、食料品や水、夜間に備えた物品などの備蓄品の整備を提案する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴、着脱などプライバシーを考慮して支援するように努めています。本人の誇りを尊重し、話を否定せず傾聴するようにしています。	利用者の人格や誇りを損ねないように尊重し、話しを否定せず傾聴する支援をしている。個人情報や肖像権に関する同意書がある。年2回人権尊重や守秘義務についての研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を尊重して、物事を押し付けないように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	話を傾聴しながら、個人に合ったペースで支援するよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪、爪切り、髭剃りをしていません。自分で出来る事は行ってもらい、見守りしながら声掛けをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の状態に合わせてお粥や刻み食にしています。満遍なく食事ができ、早食いにならないように声掛けをしています。	社長が市場で仕入れた食材を職員が利用者にあうように調理している。月1回調理レクリエーションとして鍋料理を作るなどしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態を観察し記録しています。水分や食事がなかなか取りづらい利用者には声掛けをしています。皆様にバランスの取れた食事を提供できるように努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い状態をチェックしています。毎月、口腔指導を受けています。口腔アセスメントも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、時間を確認しながら声掛け誘導をしています。できる事はやってもらうよう見守り、声掛けを行っています。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間でのトイレ誘導をしている。基本的にトイレでの排泄を支援し、全員がトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心に食事を提供しています。レクリエーションに体操などを取り入れ、体を動かすように声掛けをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆずや入浴剤を入れて色や香りを楽しむ工夫を心がけています。風呂上りには乾燥防止でクリームを塗るようにしています。また、傷がないか全身チェックしています。	基本週3回利用者の意向に合わせていつでも入浴できるよう支援している。同性介助を行うほか、入浴が楽しめるよう季節の湯を提供する等している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースに合わせて声掛けをして、安心できる雰囲気を作るように心がけています。安眠に入る前にトイレに誘導したり、部屋の温度を調整したり工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用など個人ファイルに添付して職員が把握し理解ができるようにしています。誤飲や飲み忘れがないようにチェックリストを作成しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意、能力、好みを把握し、理解して個人に合った支援ができるように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスのため、外出は控えています。しかしコロナウィルスが終息したら以前のような支援をして行こうと思います。	天気の良い日には敷地内で椅子を出し外気浴や日向ぼっこをしながらお茶を飲んでいる。通院時にドライブをしている。近隣の小学校のグラウンドに散歩して桜の花見をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で立替えるので個人的に金銭は所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な時に電話の代行を行っている。携帯電話を所持している方もいます。お正月にみんなで年賀状を書いて、家族に送付しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じるような仕事を考案し、皆様で作った作品を飾って楽しんでいます。ロビーには花を飾ったりして、明るい空間になるよう工夫しています。	共用空間は明るく、加湿器、空気清浄機を設置している。リビングにはテレビや大きなソファがあり、生花を飾り、寛げるよう工夫している。利用者の夏祭りの写真や利用者と職員で作製した創作物などが飾ってある。小上がりの畳の部屋があり、洗濯物をたたんだり思い思いに寛げる場所がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室が1人部屋なので、本人の思いの空間で過ごせるようになっていきます。リビングで雑談をしたり、くつろげるようにソファやテレビが設置してあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを持ってきてもらい、過ごしやすい工夫をしています。	居室にはエアコンやベッド、カーテン等が備え付けられている。カーテンはそれぞれ居室により赤や黄色や緑色などにして利用者が自分の部屋だとわかりやすくしている。家族等の協力の下に、利用者の使い慣れた品物を持ち込んで、利用者好みの居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺を付けたり、一人ひとりに合った福祉用具を用いたりしています。座席には名前を付けたり目印に座布団を置いたり工夫しています。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム アテン中郷

作成日 令和 4年 1月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重度化や終末期に向けた方針について、職員の研修、定期的な話し合いが行われるまでには至っていない。	マニュアルに整備と重度化や看取りに関する研修会を開催する。	研修会を開き、重度化や看取りについて職員がその人に合った支援ができるように、理解と把握に努める。	6ヶ月
2	13	災害に備えた備蓄品の管理が不十分である。	備蓄品の管理をする。	災害に備えた備蓄品の一覧表を作成し、管理する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。